

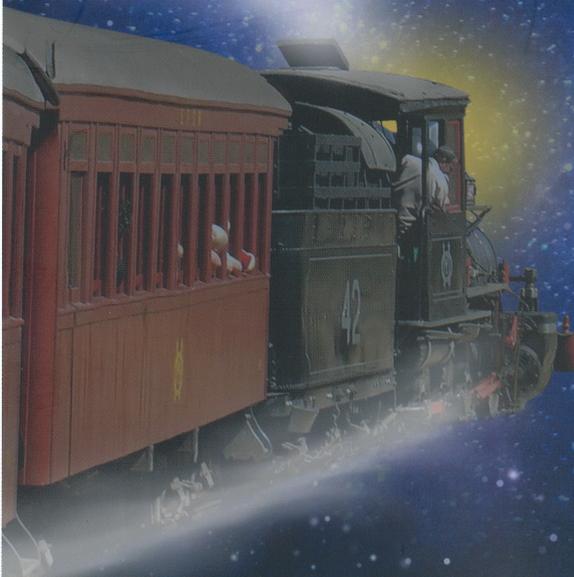
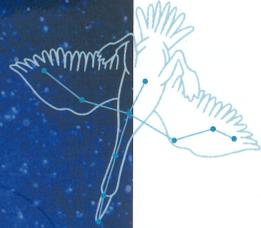
自学に活用できます



動く文学地図
関連動画 NHK for school
鳥の声・虫の音
などが視聴できます

巻頭増補版

最新国語便覧



浜島書店

漢文の基本

漢文は日本語と語順が異なり、また、助詞や用言の活用もない。「書を読む」は「讀書」であり、これを日本語と同じに読むために「讀書」とする。このように読むことを「訓読する」といい、日本語と同じ語順にするためにつける記号を返り点、助詞や活用語尾などを送り仮名という。

〔白文〕 返り点などがつかない原文。
宋人有耕田者



送り仮名 助詞・助動詞や、活用語尾を補う。文語文法に従い、カタカナで漢字の右下につける。
返り点 読む順序を示す記号で、漢字の左下につける。

句読点 文の区切りを示すために、句点(・)・読点(、)をつける。
ひらがなで漢字の右側につける。
〔書き下し文〕 漢文を訓読法に従って、文語体の日本語に書き換えたもの。仮名交じり文ともいう。
宋人に田を耕す者有り。

3 書き下し文の注意点

- 送り仮名のカタカナはひらがなに直す。必ず歴史的仮名遣いのままで書く。
有_レ備_ハ、無_シ患_ハ。
歴史的仮名遣い
備へ有れば患ひ無し。
- 日本語の助詞・助動詞に当たる字はひらがなに直す。
夫子之道_ハ、_レ夫_ノ道_ニ。
見_レ信_ル於_レ朋友_ニ。
〔朋友に信ぜらる。〕

●主要な助詞・助動詞

助動詞	助詞	漢字	読み	働き
遣・令・為	也邪耶	也	や・か	終助詞「や・か」
如・若	之	之	の	係助詞「の」
可	自・從	自	より	格助詞「より」
見被所	与	与	より	格助詞「より」
不・弗	耳已爾	のみ	のみ	副助詞「のみ」
乎哉夫	矣	かな	かな	終助詞「かな」
乎哉夫	矣	かな	かな	終助詞「や・か」
乎哉夫	矣	かな	かな	終助詞「かな」
見被所	受身	受身	受身	受身「る・らる」
可	推量	推量	推量	推量「べし」
如・若	比況	比況	比況	比況「ごとし」
遣・令・為	断定	断定	断定	断定「なり」
遣・令・為	受身	受身	受身	受身「る・らる」
遣・令・為	使役	使役	使役	使役「しむ」

1 送り仮名

漢文を日本語として読むために、助詞・助動詞や活用語尾などを補う。
カタカナで漢字の右下につける。
原則 ● 文語文法に従い、歴史的仮名遣いを用いる。

- 意味上必要な助詞・助動詞を送る。
其人。孔子聖人。
- 活用語尾は、活用語尾を送る。
天高馬肥。
- 誤読が心配な場合は語幹の一部も送る。
柳色新。
- 名詞から転じた動詞は、もとの名詞以外の部分を送る。
大雪。大器。晚成。
- 会話や引用文の終わりには「ト」を送る。
子曰「不可」。
- 再読文字は、一度めの送り仮名は漢字の右下に、二度めの送り仮名は左下につける。
子曰「不可」。
- 再読文字は、最初の読みは漢字を用い、二度めの読みはひらがなに直す。
賞_二月_一於_レ須磨_ニ。
- 副詞や接続詞などは一般的には漢字を用いる。
不_レ亦_レ樂_シ乎_ニ。

③ 名詞・動詞・形容詞・形容動詞などは、原文の漢字のままで書く。
句読点も漢文と同様につける。
例 我、学_レ漢文。
④ 訓読の際、直接には読まない字(置き字)は、書き下し文では書かない。
例 秦_ノ必_ズ破_レ矣。
例 賞_二月_一於_レ須磨_ニ。
⑤ 再読文字は、最初の読みは漢字を用い、二度めの読みはひらがなに直す。
例 将_レ送_レ君_ニ。
⑥ 副詞や接続詞などは一般的には漢字を用いる。
例 不_レ亦_レ樂_シ乎_ニ。

●主要な接続語

漢字	読み	働き
雖	いへども	たとえ…としても
然	しかるば	…ではあるが
則	すなはち	…ではあるが
因	ゆえに	…だから
故	ゆえに	…だから
於是	そこで	…だから
是以	こういふわけで	…だから
以是	これによつて	…だから

⑦ 会話や引用文の終わりにある「ト」は、「」の外に出し、「…ト」と書く。
例 子曰「不可」。
〔不可なり。ト。〕
〔不可なり。ト。〕

2 返り点

▽返り点は漢字の左下に小さくつける。二字の熟語に返読する場合は二字の間にハイフンを引くのが一般的。

記号	使い方	例	訓読の順序
雁点	下の字から、すぐ上にあるレ点のついた字に返る。	歲月不待人。歲月人を待たず。	1 歳 2 月 3 不 4 待 5 人 6 歳 7 月 8 人 9 待 10 た 11 ず
一・二点	二字以上隔つて、上に返つて読むのに用いる。	我学漢文。不為兒孫買美田。	1 我 2 学 3 漢 4 文 5 不 6 為 7 兒 8 孫 9 買 10 美 11 田
上・下点	レ点と一・二点や上・下点とが複合する場合に用いる。	君子不以言举人。秦昭王請以十五城易之。	1 君 2 子 3 不 4 以 5 言 6 举 7 人 8 秦 9 昭 10 王 11 請 12 以 13 十 14 五 15 城 16 易 17 之
占点	レ点と一・二点や上・下点とが複合する場合に用いる。	我学漢文。不為兒孫買美田。	1 我 2 学 3 漢 4 文 5 不 6 為 7 兒 8 孫 9 買 10 美 11 田

返り点を読む順序

- 上から順に漢字を見ていき、返り点のついていない字から読む。
- レ点と一・二点は、出てきた順に読む。
- レ点のついた字があれば、その下の字を先に読んで上へ返る。
- ③まで読んだら、次の返り点のついていない字を読む。

4 漢文の基本の構造

▽漢文は、語の位置関係で意味が決まる。漢文の構造は熟語の構造と基本的には同じである。

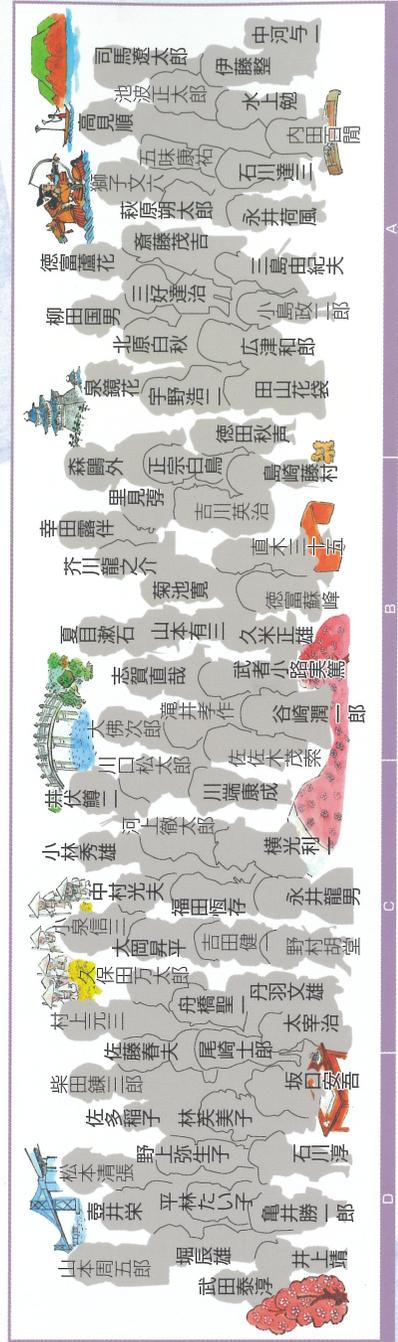
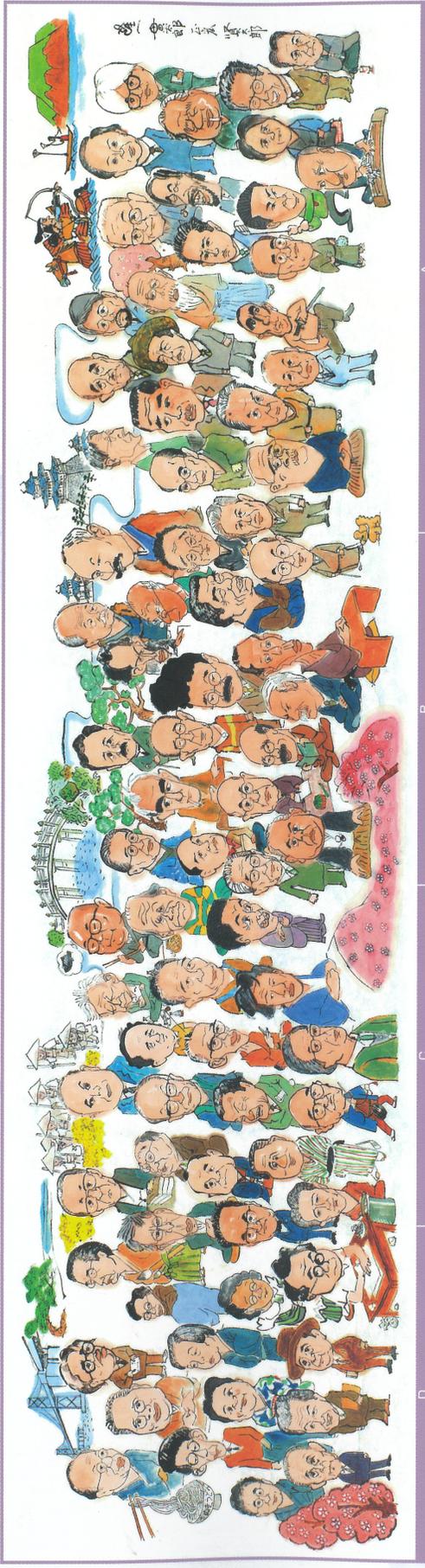
構造	例	説明
① 主語＋述語	花開鳥啼。孔子聖人。	日本語と同じく主語は述語の上に置く。
② 主語＋述語＋目的語	我学漢文。良薬苦於口。	目的語は述語の下に置く。
③ 主語＋述語＋補語	孔子問礼於老子。	補語は述語の下に置く。補語の上に助字を置くこともある。
④ 主語＋述語＋目的語＋補語	孔子問礼於老子。	目的語と補語がある場合、「述語＋目的語＋補語」の順になる。
⑤ 主語＋述語＋補語＋目的語	頼朝与西行銀猫。	④で述語が「与・賜・授・贈・教・遣」などのときは、目的語と補語の順が逆になり、置き字を用いない。
⑥ 主語＋述語＋補語＋第一補語	管仲任政於齊。	二つめの補語は場所を示す場合が多い。
⑦ 修飾語＋被修飾語	蕭蕭送雁群。	

目的語…述語が示す行為の対象を示す語。「AをBに…する」のAにあたる語。
補語…行為の原因や場所を示し、述語の意味を補う語。「AをBに…する」のBとなる。

▷目的語を表す送り仮名「ヲ」や補語を示す送り仮名「ニ・ト・ヨリ」があったら上に戻って読む。

漢文

漢文資料 漢文の基本



表紙(表)は寛澤寛治の『銀河鉄道の夜』をテーマに。



寛澤寛治

年	年	年
誌	誌	誌
聯	聯	聯
		名前

最新国語便覧

定価 本体880円 + 税

2019年10月4日 巻頭増補版発行
 2020年2月5日 印刷・発行
 編著者 / 浜島書店編集部
 発行者 / 株式会社浜島書店
 代表者 / 浜島 晃
 発行所 / 株式会社浜島書店

〒466-8691
 名古屋市昭和区阿由知通2-1-1
 ☎(052)733-8040(代)
 振替 / 00870-6-59238



www.hamajima.co.jp

乱丁・落丁本はおとりかえいたします。

ISBN978-4-8343-1001-6 C7390 ¥880E